

「政治を変えたい」その願い、こぞって日本共産党へ

「かんばん」をご覧の皆さん、いつも大変お世話になってます、浅野ふみ子です。いかがお過ごしでしょうか。

この間の訪問や宣伝でお会いした方から、コロナ「第4波」の事態を招いた政府の無為無策ぶりに激しい怒りが次々と寄せられます。

「ワクチンはいつになったら接種できるのか。コールセンターは電話が繋がらない。妻は基礎疾患があるから心配」(高齢の男性)

「高齢の親戚がコロナに感染し入院した。同居家族が成田のホテルで療養中、面会もできないまま亡くなってしまった」(男性)

「職場で PCR 検査を受けたが、陽性だったら仕事を休まなくてはいけなくなるから結果が出るまで不安だった。補償がまったくない」(高齢者施設で働く方)

「会社で受けた検査の結果が出るまで怖かった。新型もあるし、今しか安心できないことに不安しか残らない」(小5の母)

「子育て支援をすぐに充実してほしい。給食費や教材費など負担が重くて大変」(小、中、高の3人子育て中の女性)

県議団とともに、これらの声を届けて「ワクチン関係の様々な情報の公開」「検査の抜本的な拡充」「自粛と一体の補償を」と繰り返し提案してきました。同時に、これらのおおもとの国政を変えなくてはならない、市民の声を直接国会に届ける日本共産党の議席を増やさなくてはいけない、その思いが日に日に大きくなります。

いよいよ総選挙です。

「自己責任」を押し付ける政治を終わらせ、命とくらしを守ることに責任を持つ政権を今こそ打ち立てなければなりません。

「政治を変えたい」—この思いを広げ、そして連帯の輪を広げるために全力を尽くします。日本共産党と浅野ふみ子へのご支持・ご支援を心よりお願い申し上げます。

自己責任の押し付け政治はもうごめんです。ごいっしょに声を上げ、ストップさせましょう!

日本共産党千葉県委員会副委員長
衆議院千葉5区

浅野ふみ子



このコロナ禍に75才以上の医療費を2倍にするなんて!

	1割	2割
関節症(膝の痛みなど)で外来受診	年 3.2 万円⇒	年 6.4 万円
関節症および高血圧性疾患で外来受診	年 6.1 万円⇒	年 12.2 万円
関節症および脳血管疾患で外来受診	年 7.3 万円⇒	年 14.4 万円

※厚生労働省の資料から日本共産党が作成。
2割負担額は経過措置終了後

今国会に政府与党が提出している「高齢者医療費2倍化法案」。窓口負担が2倍になる対象は単身で年収200万円以上ということですが、決して「お金持ち」などではありません。高齢になれば、ただでさえ体の不調が増え、複数の診療科目を受診するようになり、飲むこともめずらしくありません。

コロナで一番重症化しやすい高齢者に、90才になっても100歳を超えても情け容赦なく負担を2倍にするというのは、冷酷極まりない仕打ちです。

「現役世代の負担軽減」？ 政府の言い分は真ッ赤なウソ

菅総理は口を開けば「現役世代の負担軽減のため」と言います。高齢者からも「年寄りが増えて子どもたちの負担が重くなるので、値上げは仕方がないので、は？」との声もあります。しかし、この政府の言い分は全く違います。現役世代の負担軽減は、一人当たり月わずか30円、年間で350円だけなのです。一方高齢者の負担は上の表のように、数万円もの負担増になるのです。そして高齢の親御さんの医療費負担を家計で支えている息子、娘世代にも、この負担増は直撃します。

年金は2百万円もないから大丈夫？ 対象も額も 拡大可能に



法案が成立してしまえば、時の政府のさじ加減で、対象も引き上げ幅もいつでも拡大が可能になります。消費増税を思い出してください。最初は3%でした。高齢者の医療、福祉に使うなら、増え続ける国の借金を何とかしなければならぬから仕方ないと思われたい方も少なくなかったのではないのでしょうか。しかしその後5%↓8%↓10%と引き上げられたのに、年金は減らされ、国保税や介護保険料は値上げ。福祉も医療も充実とは程遠い現実です。

この法律とセットで狙われているのが、国保税の引き上げと公立病院の病床削減です。稀代の悪法です。みんなの声で何としてもストップさせたいです。
(東野在住 井原めぐみ)

か
ん
ぱ
ん
ば
い
い
Cheers!

日本共産党浦安南部
後援会ニュース 54号
2021年5月発行
発行責任者:堀内勝利
Tel&FAX:354-7815
【部内資料】